

1. 単元名：サイクリングにGO！

2. 単元概要

「新しい自転車を買ってもらった！」という友達の話がきっかけで、自転車の話題で盛り上がった。校内にある自転車の数は限られ、昼休み時間には競うように乗って遊ぶ姿が見られた。補助輪がないと乗ることができない子どもや補装具を着用している子どももいたが、友達が自転車に乗って疾走する姿に大変興味を抱いた。そのため、行列のできる自転車遊びになり、昼休み時間だけではグラウンドを一人1周できるかどうか…という当初の状況であった。

そこで、自転車に乗ることを中心にする生活単元学習「サイクリングGO！」を展開することになった。毎日11時から始まる単元の中心的な時間には自転車に乗って遊ぶことを繰り返し、最終日には日帰り圏内にある森林公園に校外学習で出かけて、「サイクリングコース」をみんなで走るという企画であった。毎日、存分に楽しむためには、自転車の絶対数が足りなかった。校内の教職員に呼びかけたところ「子どもも大きくなったので……」等、想定以上の自転車が寄付された。保護者の中には自転車屋さんと親しいという方もいて、補助輪も含めた自転車の点検・整備も終えて、準備は整った。一方、「サイクリングコース」の下見をしたところ、コースには横断歩道やミニS Lの踏切等もあり、関連する活動として交通ルールを理解等の生活上リアルな学習にも取り組むことになった。

単元期間中に、6名の子どものうち5名は補助輪なしで乗れるようになった！補助輪が必要な子どもはサイクリングコースに備えてあった「大人三輪車」を使用することで、全員でサイクリングを大いに楽しんだ校外学習となった。

3. 単元目標

- ①サイクリングコースの走行も含めて自転車遊びを存分に楽しんでほしい。
- ②自転車乗りをくり返し楽しむ中で、ブレーキ操作、カーブ走行等の技術面をより確実にしてほしい。
- ③自転車遊びを通して交通ルールにも関心をもって理解を深めてほしい。

4. 単元の日程計画

午前(10時～11時30分)	午後(13時30分～14時15分)
①ヘルメットや膝当てを装着して、自分にあった大きさの自転車を選んでグラウンドの外周を存分に走る。 ②ペダルこぎが難しい子どもにはスタート用のゆるやかなスロープを用意して、こぐタイミングをつかめるようにした。 ③急ブレーキのかけ方やカーブ操作は、教師も一緒に走りながら、ゲーム要素を取り入れて楽しく学べるようにした。	※午後はグループごとの教科別の学習として展開し、交通ルールへの理解を深めるグループと、午前中の時間帯のゲームで使用する「止まれ」「カーブ注意」…等の交通標識や看板を「図工」として制作する…等した。

5. ポイント解説

- ①バランス感覚、知覚・全身の協応運動等、体育的・自立活動的要素が豊富な内容に加えて、交通ルール等の生活科・社会科的内容も含む総合単元となった。また、余暇生活の広がりという点でも保護者到大変喜ばれる単元になった。
- ②本単元に関連して、翌年には中学部の生活単元学習として「擬木」を大量に生産し、グラウンド外周に敷き詰め、砂利と砂を搬入し、見事なサイクリングコースが完成することになった。